

大震災の復興支援とともに、仲間づくりも！



4月12日開催の第5回常任理事会にて確認

事務局長・木村 泉

事務局からの報告

1. 財政については、会費納入の状況と今後の入金の見通し・特別会計の状況について報告されました。
 - ・会計年度会計は4月から翌年3月で締めます。「4月～6月」までの財政は昨年度並みで執行し、6月の大会で承認を受けることを確認しました。
 - ・1～3月分の会費、平和新聞購読料の納付徹底を進め、4月中の完了で協力願います。
2. 「平和かわら版」の発行について
 - 昨年度の編集は、代表理事・常任理事のプロフィールを紹介しました。活動の紹介や報告・東日本大震災の被害・復興支援など、時宜に応じた記事で定期発行しました。
 - ・配布は、「各平和の会を通じて」、「平和新聞購読者は新聞と一緒に月3回郵送」、「3部をまとめて月1回の郵送」が、それぞれ3分の1ずつとなっています。
 - 今年度の編集方針は、活動の提起や報告・特集をベースに、各地の会員の紹介や各平和の会の紹介、大震災の現状や復興支援の報告、必要に応じ、理論・学習の特集を組みます。

大会までの取り組みを決定

1. 震災の復興支援を進めよう。
 - ①平和委員会独自に義援金を募ることが決定されました。「憲法フェスタの中止」を受け、「憲法フェスタの賛助金に見合う額」を各平和の会で取り組みます。募った義援金は日本平和委員会に送金します。
 - ・第1次締切りを5月13日（金）・第6回常任理事会、第2次締切りを6月11日（土）・県大会までとします。事務局では要請文を作成し各平和の会に送付します。
 - ②復興支援は息の長い取り組みになります。個人の取り組みも進んでいます。他の団体を通じて協力している人も多く、一律にはできない状況を念頭に入れて取り組みます。
 - ③会員の被害状況を確認し、支援活動も同時に進めます。
2. 「憲法フェステバル」を中止し、5月3日（火）に水戸駅で、宣伝・カンパ活動を行います。

- ・「県内の多くでライフライン復旧の遅れ、被災者の受け入れなど、震災対策で忙殺という状況で準備は困難」、「復興・救援活動に取り組みたいという、現状の問題意識とギャップがある」などが理由です。
 - ・すでに受け取った賛助金（100人分程）は来年の活動資金としたい旨を連絡し了解を得ます。
 - 5月3日（火）・12時～14時、水戸駅北・南口で30人以上の規模で宣伝行動を行います。
 - ・「復興支援」「憲法を守れ」を視点としたアピール・チラシ配布・義援金の募金・パネル展示等を行います。県平和委員会には、10人以上の参加要請があります。多数の参加をお願いします。
3. 大会までに「100名の新しい仲間づくり」を進めよう。
 - ①大会までに100名の新しい仲間を迎える事を、1月の理事会、3月の活動交流集会で確認しました。その結果、3月は8名の新会員を迎えました。
 - ②東日本大震災とその復興支援等での事実上の活動停止状態からもう一度ネジを巻きなおし、推進委員を確認します。
 - ③連絡網を再度確認し、取組状況の確認とオルグ、情宣を強化します。「しおり」「入会のお誘い」が完成しましたので、必要数を各平和の会に送付します。
 - ④各平和の会では拡大推進委員を決めて取り組みを進め、常任理事会（5/13）までの目標と取り組みの手立てを全体で確認し、行動を進めます。
 - ⑤大会（6/11）まで、目標＝100名の拡大を、信念を持ってやりとげましょう。
 4. 事務局は、「月～金」（9：30～17：00）は在室します。

「茨城県平和委員会大会」の準備等について

- 「第6回 常任理事会」5月13日（金）午後2時～事務局（水戸市平和会館内）で、大会議案の骨子を討議します。
- 「第4回 理事会」5月28日（土）午後2時～・石岡グリーンパレス（小会議室）で、大会議案を討議します。
- 「茨城平和委員会2011年大会」
・6月11日（土）午前10時～午後4時、「茨城県青少年会館」（水戸市）で開催します。

巨大地震と大津波に原電・東海第二発電所はどうだったか

福島第一原発の危機的状況が続くなか、日本原電・東海第二発電所は地震発生直後に自動停止した後も「冷却機能が働き」トラブルを免れた。原電は「津波対策が功を奏した」というが、その実態は福島第一原発の状況と紙一重の違いである。

原電によると、11日の地震による停電で外部の主電源と予備電源を喪失し、非常用電源3台が作動したが、うち1台が海水ポンプの故障で使用できなくなり、残り2台で電源を確保し、原子炉の冷却システムを機能させたという。東海第二発電所で非常用発電機の海水ポンプが壊れたのは、福島第一と同様、津波をかぶったのが原因と見られる。

原電は津波対策として、2009年7月から同原発の海水取水口付近で防波堤の役割をする護岸を、従来の4.2mから7.2mにかさ上げする工事に着手。今回の大地震で、かさ上げた部分は津波を防いだが、ポンプが壊れた発電機の部分はまだ工事が終わっていなかった。原電は「取水口付近は湾状の地形のため、津波が5mに達したと見られる。かさ上げがなかったら、トラブルにつながった可能性もある」と説明している。

日本原電の東海第二発電所に関する耐震安全性評価は、昨年9月から「妥当」と評価されているが、報告書は今回のM9.0の巨大地震や震度6強の地震動などは全く評価の対象にしておらず、大津波も含めて再評価が必要であることは言うまでもないことである。

原電は「功を奏した」などと言っていないで、真剣に見直すべきである。

（茨城県原発を考える会「げんぱつ茨城住民運動ニュース」）

平和新聞

2011年4月15日号(金曜日)
1954号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 592
2011.4/15

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

百里の記録

①「百里基地：開拓農民と百里基地闘争」古関彰一著（汐文社）：1977年



「野仏：百姓・桜山安太郎の生涯」土屋とみ枝著（三一書房）：1982年



「百里原農民の昭和史」東敏雄編（三省堂）1984年12月

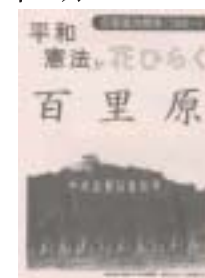


「茨城の軍事基地」百里平和委員会：1988年11月

「パンフ・百里」百里平和委員会：1992年2月



「百里物語」松原日出夫著：1998年1月



「パンフ・平和憲法が花ひらく百里原」百里基地反対連絡協議会：2002年11月



「パンフ・百里のお稲荷さん」：2003年2月

●2010年11月に松原日出夫さんが出版した小冊子「どうして民間共有化／基地の強化と赤字のツケ／どうする茨城空港」（60頁）は、かなりの会員の方に普及して頂きましたが、現在県平和委員会に65部ほどの在庫があります。定価は、1部300円（但し10部以上の場合は1部150円）です。

今年も基地監視行動も！

百里平和委員会第22回総会・報告

百里平和委員会 栗又 衛

3月27日（日）に22回目の総会を開催しました。県平和委員会の中では最も長く活動している単位平和委員会ではないかと思いますが、近頃は活動が停滞気味であります。年1回の総会は、10月に開催しているのですが、宮澤昭会長が総会直前に他界されたことにより、延期されていまして。百里基地反対同盟の委員長もつとめられ、基地反対運動の先頭に立ってこられた宮澤昭会長の抜けた穴は大きいものですが、「平和で静かなくらしには基地も空港もいらぬ」という会長の遺志を受け継いで、息長く運動を続けていく決意を確認する総会となりました。

新しい会長には、百里基地反対同盟の梅沢優さん、副会長には中山尚治さんと山口了さんが選ばれました。茨城空港が開港1年目を迎え、百里基地の機能と規模の拡大も進む中で、今年はしばらく途絶えている「基地監視行動」を県平和委員会と共に実施することや独自の「騒音測定」を行えないか検討すること、平和公園の草刈りを行うこと、旧射撃場山の整備を進めることなどが確認されました。もちろん、今年で18年目になる「平和農園の米づくり」も続けていきます。5月中旬には田植えを予定しています。

誘導路を「くの字」に曲げている平和公園にある「平和地主運動地」での「平和地主」（現在104名）の募集（1㎡＝5千円）も希望者がいる程度まとまれば、再開します。

これからも県平和委員会と共に、たくさんの個人、団体と力を合わせて、百里基地反対運動を担っていきますので、ご支援をお願いいたします。

親しみやすく・役立つ

「かわら版」にするために



3月5日（土）の県平和委員会活動交流集会での話し合いの中で「平和かわら版」に対する意見が多数出されました。

[シリーズ] わが街・わが会員

常陸太田市 / 綿引 悦郎さん
（常陸太田平和の会）



私の故郷は、秋田の山村です。お祭りなどではときどきイワナの塩焼きなどを売ったりしたことがあります。

かつては京都で京友禅の職人をしたことがあり、その関連で趣味は写真やイラストなどです。そのような経験は、広告やチラシを作るときに役立っています。

平和運動との関わりでは、学生時代に、学長だった哲学者の真下信一氏のもとで、チリ人民連帯委員会の手伝いをやったことから始まりました。現在は、民商県連の事務局長をやっており、年中多忙ですが、地域ではPTA活動にも取り組んでいます。

今度の大地震で、我が家も被害を受けましたが、物は壊れてしまっても、自分の元気だけは失わないように、気を張ってやっています。

皆さんの知恵をお寄せ下さい！

- 会員の拡大の武器のひとつとなるものが「かわら版」であるが、初めての人にはカタイ。月3回のうち1回は、知らない人・人を集めるために、易しく解りやすい内容にしてもらいたい。
- 文章が硬い。手にとって読んでみようと思えるように工夫すること大切である。

- 県段階、地元のたたかいなども取り上げて載せてほしい。
- 会員の「なまの声」を多く届けてほしい。
- 月3回でなく2回でもよいから、よく練った記事にしていくよう検討してほしい。

今後、親しみやすく・役立つ「かわら版」とするよう、多くの方の意見を寄せていただきますようお願いいたします。